

■肢体不自由のある子どもたちへの実践事例

子どもたち一人ひとりの実態に合った 読書形態を提供し、読書習慣の形成を図る

東京都立八王子東特別支援学校
山田梨紗

はじめに

本校は、小学部1年生から高等部3年生までの児童・生徒125名が在籍する肢体不自由特別支援学校です。2012年度より、わいわい文庫利用研究校となり、マルチメディアDAISY図書は、貸与されたタブレット端末(iPad1台、iPod10台)および校内のタブレット端末(iPad 9台)に導入して活用しています。

これまでの取り組み

本校では、以下の2点に取り組んでいます。

- (1) マルチメディアDAISY図書の校内での活用方法の検討
- (2) マルチメディアDAISY図書の周知方法の検討

その中で、マルチメディアDAISY図書がどのような子どもたちに有効なのかについて、つぎのような整理を試みました。

- ①本の導入期の子ども
- ②文章を読むことはむずかしいが、聞いて理解できる子ども
- ③一人で本を楽しむことができる子ども

- ④一人で本を読むことを目指す子ども
(『わいわい文庫活用術④』を参照のこと)
そして、2016年度より「子どもたち一人ひとりの実態に合った読書形態を検討し、提供していくこと」に継続して取り組んでいます。

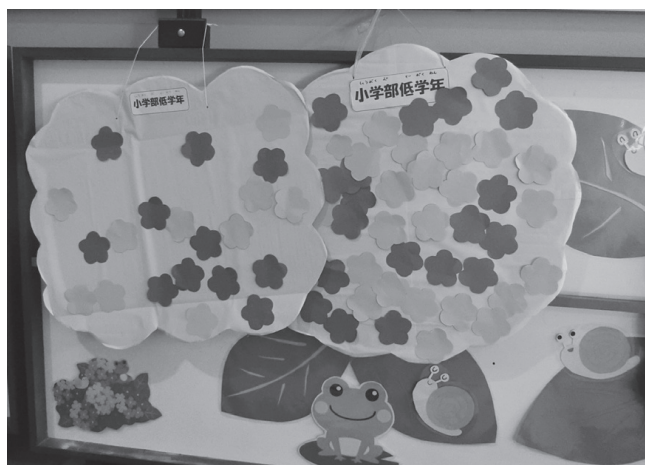
新たな取り組み

今年度、読書月間において「読書の花」という新たな取り組みを行いました。本を借りる度に、掲示物に花のシールを貼る活動です。



花は2種類あり、紙媒体の本を読んだ場合は、ピンクや紫の花、マルチメ

ディアDAISY図書を読んだ場合は、青の花を貼ります。新たな取り組みを実施したことでライブラリーに興味をもち、また、たくさん本を読んでいる学部ほど色が鮮やかになるため、「負けないように頑張ろう」という意欲の向上にもつながりました。読んだ本の媒体によって花の色を変えたことで、「あの花の色はなぜ違うの?」とマルチメディアDAISY図書を知るきっかけになったり、「またマルチメディアDAISY図書を使おうかな」とマルチメディアDAISY図書の普及につながったりしました。



「読書の花」を設置したことで、貸出冊数は昨年度の3倍以上になり、読書習慣の形成にもつながりました。

ライブラリーオリエンテーション

本校では、毎年年度の始めに、ライブラリーオリエンテーションを複数回行い、貸出方法の説明や、さまざまな読書媒体の紹介を行っています。

その際には必ずマルチメディアDAISY

図書を、子どもたちや教職員が体験できるようにしています。新入生や新教職員にとって有効であると同時に、マルチメディアDAISY図書の存在を知っている人にとっても、図書を思い出す機会となっています。



マルチメディアDAISY図書の活用事例

①本の導入期の子ども

本に触れる経験が浅い子どもは、身

近な人に絵本を読んでもらうことで、話す人の声に反応して本のほうを見ようとしたり、自分でも手に取ってページをめくろうとしたり、一緒に声を出そうとしたり、と少しずつ本に興味をもつようになります。

こういった子どもは、身近な人による働きかけにより絵本に親しんでいきます。このように、折に触れて本を提供することが重要ですが、大人がいつでも読めるわけではありません。子どもたちにとって、一人でも楽しめるマルチメディアDAISY図書は、本に親しむうえでとても有効です。

〈小学部1年のAさん〉

小学部1年生のAさんは、医療的なケアが必要な子どもで、24時間の人工呼吸器、持続吸引をつけて生活しています。生活のさまざまな場面で、周囲の人からの多くの協力が必要です。

このようなAさんは、本のページを一人でめくることはむずかしいのですが、マルチメディアDAISY図書を活用することで、一人で読書を楽しむことができます。

ふだんは『海の中をのぞいてみよう』や『海の中をのぞいてみよう2』、『身近に見られる鳥』など、写真絵本を好んで読みます。iPadでさまざまな世界を見ることで、Aさんは多くの知識を学び、経験したかのようなさまざまな

感覚を味わうことができます。

Aさんは昼食後に人とゆっくり過ごす教材として、マルチメディアDAISY図書を教職員と一緒に見て楽しんでいきます。心弾む気持ちを、足をバタバタさせて表現したり、発声のトーンや長さを変えたりして周囲にも気持ちを伝え、楽しんでいました。同じフレーズが出てくるお話しや内容では、次の展開を心待ちにして発声する姿もあります。本を読んでもらいながら、読んでくれる人に気持ちを伝えようと声を出すなど、読み手と楽しい雰囲気共有しようとしています。

学習場面では、現在ひらがな五十音を練習し獲得している途中です。マルチメディアDAISY図書は音声とともに、読み上げられる部分の文字が色で反転されるので、文字の学習にもなります。

余暇の1人の時間の楽しみとして、また知識や経験の世界を広げるための手段として、今後も活用していきたいです。海や空、森など、写真展開のものが多くあると、より多くの場面で経験を広げることができると思います。



〈小学部3年生のBさん〉

小学部3年生のBさんは、入院生活が長く、医療的なケアが必要な子どもです。訪問学級に在籍していて、自宅や病院で学習をしています。マルチメディアDAISY図書を使用したことで、本のページをめくる必要がないので、一人で読書をしたり、好きなお話を選んで物語を楽しんだりしています。

授業では、カタカナの学習を始めるにあたり、マルチメディアDAISY図書の『ケーキ・ケーキ・ケーキ』を活用しています。画像が少しずつ表れていく画面を見ながら、「何のケーキかな？」と考え、そのケーキの読みとカタカナの表記を確かめて覚えることもしています。ケーキの現れるところから、興味をもって取り組んでいます。また、プリント学習で書く練習をする際もマルチメディアDAISY図書を学習の一環として取り入れ、カタカナの習得に励んでいます。

今後はiPodに機器を接続して、一人で操作することに取り組みたいです。



〈小学部4年生のCさん〉

小学部4年生のCさんは、自立活動の時間や休み時間、家庭でもよく絵本を読んでいて、絵本にしっかりと注目し、楽しみながら読み聞かせを聞いています。どのお話でも画面に注目し、特に『11ぴきのねこ』シリーズの紙芝居風『11ぴきのねこ ふくろのなか』が始まると興味深そうに画面を見つめ、笑顔が見られます。

「にゃごにゃごにゃご」の場面が大好きで、嬉しそうに笑い、繰り返し聞く中で「にゃごにゃごにゃご」が始まると、一緒に声を出し、「始まったよ」と言っているかのように教員のほうをじっと見て教えてくれます。

オノマトペや繰り返しの言葉を用いることで、言葉に親しみをもったり、言葉のリズムを楽しんだりすることができるので、紙芝居風や演劇風などさまざまな題材が入っている「わいわい文庫」は、本導入期の子どもが絵本に親しむために、有効だと感じています。



②文章を読むことはむずかしいが、聞いて理解できる子ども

一部文字が読めるなど文字の世界に入りつつある子どもたち、文章を読むことはむずかしいが、聞いて理解できる子どもたちにとって、傍らで本を読んでもくれるマルチメディアDAISY図書は非常に効果的です。

〈中学部1年生のDさん〉

中学部1年生のDさんは、数年前から継続してマルチメディアDAISY図書を使用しています。もともとテレビ番組などの映像を見ることが好きなDさんは、マルチメディアDAISY図書のお話も気に入っていて、よく集中して見聞きしています。

マルチメディアDAISY図書の魅力は、話に合わせて子どもの興味をひく画像が使用されていることに加えて、どの文字が音声で読み上げられているかが、一目でわかることです。国語の授業で長い時間、集中して学習に取り組むことがむずかしい場合、「この学習を頑張ったら、iPadをしよう」など好きなマルチメディアDAISY図書を合間で使用することで、勉強に対するモチベーションを上げる手段にもなっています。

大好きな作品があるということは、意欲的にタブレット端末を操作しようという行動につながります。タブレット端末を操作することが、初めはむず

かしかったようですが、お気に入りの話を選ぶために意欲的に操作を繰り返すうちに、器用に操作をして、好きな話を選択できるようになりました。



③一人で本を楽しむことができる子ども、それを目指す子ども

〈高等部1・2・3年生の知的障害を併せ有する生徒の教育課程のグループ〉

高等部1・2・3年生の知的障害を併せ有する生徒の教育課程のグループでマルチメディアDAISY図書を使用しました。何度か使ったことのある生徒は、一人で黙々と図書を見始めます。たくさんある話の中で、タイトルだけを見て今日は何を見ようか、と決めることが多いようですが、なかには「どれを選んだらよいかわからない」と悩んでいる生徒もいました。紹介の方法は考えていく必要があると感じています。

生徒から出た意見は、「文字が黄色くなるのがわかりやすかった」など、ほとんどの生徒が「ぜひまた使いたい」と言っていました。こちらが様子を見てい

ても、実に楽しそうに聞いており、集中も途切れることはありませんでした。



まとめ

ここまで、本校におけるマルチメディアDAISY図書の活用について記してきました。「子どもたち一人ひとりの実態に合ったさまざまな読書の形態を提供することが、読書習慣の形成につながる」ことが言えます。今後も、子どもたちがいつでも活用できるよう環境を整え、新たな取り組みを実施し、子どもたちの読書習慣の形成を図っていきます。